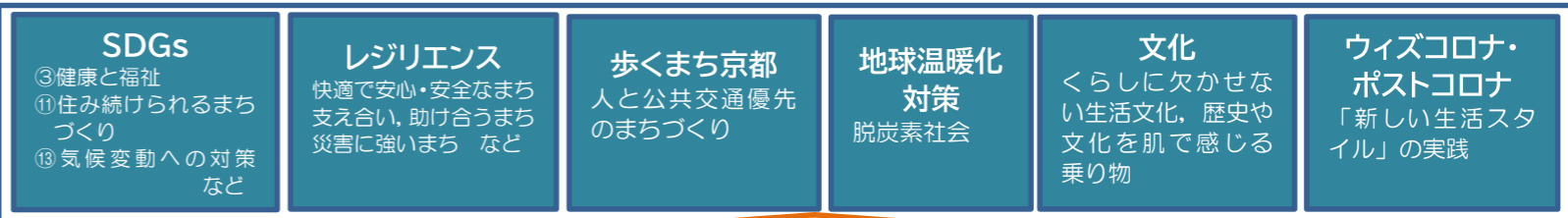


京都市自転車総合計画 2025（素案）

【計画期間：令和3年度～令和7年】

「自転車共生都市・京都」の実現 ～自転車をつなぐ、ひと・まち・暮らし～

- 安心・安全** 自転車のルール、マナーを学び、守り合い、道路を正しく使い合うことにより、安心して心地よく行き交えるまち
- 豊かな生活** 利便性・機動性に優れ、健康的で環境にもやさしく、歴史や文化、自然を肌で感じることができる自転車を生かし、生活の質を高め合うことのできるまち



様々な課題に対応、貢献

柱1「ひと」との共生 ～ルール、マナーを学び・守り合う～

- 【推進施策1】ライフステージやニーズに応じた自転車安全教育・学習の推進
 - ・サイクルセンターでの多様な自転車教室の実施 等
- 【推進施策2】自転車利用の安心・安全を守る環境づくりの推進
 - ・大学生へのルール、マナーの啓発
 - ・企業やフードデリバリー業者との連携 等
- 【推進施策3】観光客のルール、マナーの向上
 - ・レンタサイクル事業者等との連携 等

柱2「まち」での共生 ～道路を正しく使い合う～

- 【推進施策4】自転車走行環境の整備
 - ・自転車走行環境整備の新たな箇所での実施
 - ・矢羽根等の路面表示方法の見直し 等
- 【推進施策5】駐輪環境整備及び放置自転車対策の推進
 - ・駐輪場の整備や機能向上による利用促進
 - ・小規模分散の駐輪需要への対応の検討 等

3つの柱

<10の推進施策>

柱3「暮らし」での共生 ～生活の質を高め合う～

- 【推進施策6】環境にやさしく快適な移動環境づくり
 - ・公共交通を補完するシェアサイクル等の推進 等
- 【推進施策7】健康増進のための自転車の活用
 - ・自転車通勤等の情報発信や自転車による健康教室の実施 等
- 【推進施策8】安心・安全な自転車観光の推進
 - ・自転車観光の魅力発信やサイクリング環境の整備 等
- 【推進施策9】災害対応を視野に入れた自転車の活用
 - ・災害対応を実施する際の自転車活用
- 【推進施策10】その他関連施策
 - ・自転車の再利用等の推進 等

各施策の進捗の確認

【評価指標】安心・安全で快適な自転車活用に関する項目、車道左側通行割合に関する項目 等

「京都・新自転車計画」での取組成果 <計画期間:H27年度～R2年度>

世界トップレベルの自転車共存都市

・だれもが安心して心地よく行き交うことができるまち

計画に掲げる
全42施策に着手済

(1) 自転車走行環境の「みえる化」(自転車走行環境の整備)

- 自転車走行環境整備を推進 9.9km(H26)→180km(R3.3末)
- 整備箇所の車道左側走行割合 幹線道路 19.0%(H27)→36.1%(R1)
生活道路 57.5%(整備前)→93.5%(整備後)

課題 ・自転車利用状況等を踏まえた整備区域の拡大
・整備コストの低減

(2) ルール・マナーの「みえる化」(ルール・マナーの啓発・教育)

- 幼児から高齢者まで、ライフステージ別の自転車教室を展開
 - 自転車保険加入の推進 (26.2%(H26) → 86.4%(R2))
- 課題 ・市内人口の1割を占める大学生に対するルール、マナーの啓発
(自転車事故第1当事者となる割合は大学生が約2割と一番高い。)
・自転車通勤やフードデリバリーの増加等を踏まえた企業との連携
・観光客のルール、マナー対策の充実

(3) 駐輪環境の「みえる化」(駐輪環境の整備と放置自転車対策の推進)

- 駐輪場整備箇所数の増加 (190箇所(H26)→267箇所(R2))
 - 放置自転車の大幅減少 (【放置】24,600台(S60)→115台(R2))
- 課題 ・既存駐輪場の更なる利用促進
・都心部における小規模分散型の放置自転車への対応

(4) 自転車観光、自転車関連施策の「みえる化」(その他の関連施策の推進)

- ルール、マナー啓発に取り組むレンタサイクル事業者認定制度を推進 (認定数：21事業者)
- 「新しい生活スタイル健康ポイント事業」との連携

※ 備考—交通事故発生件数

- 自転車関係事故発生件数の減少 (ピーク 2,815件(H16) → 668件(R2))

継承・充実・強化

自転車を取り巻く環境の変化

●国の動向

「自転車活用推進法」の制定(H28)や「自転車活用推進計画」の策定(第1次：H30、第2次：R3)など、自転車は、単なる移動手段というだけでなく、環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、健康の増進等、様々な課題への活用が期待されている。

●京都市を取り巻く状況

SDGs やレジリエンスの取組推進、文化の継承発展、「歩くまち・京都」の推進、地球温暖化対策、ウィズコロナ・ポストコロナ対策等の多くの課題への多様な形で対応が重要となっている。

活用